# 宗教をガクモンする

SHUKYO WO GAKUMON SURU

## ⑬ 釈迦から遠く離れて

私塾「上七軒文庫」代表　亀山隆彦さん

# 「悟り」「解脱」言葉として追究

## 仏教用語は「世界を概念化したもの」

仏教という言葉には、近寄りがたい雰囲気が漂う。2千年以上前、釈迦が悟りを開いて輪廻から解脱したというが、現代社会で同じように「悟り」を望む人はどれくらいいるだろう。釈迦から遠く離れた今、日本で仏教を研究する意味は何か。そんな疑問を、京都市内で仏教などを研究する私塾「上七軒文庫」を営む亀山隆彦代表にぶつけた。

（聞き手・広瀬一隆）

さまざまな分野の学問の成果と合わせて仏教を読み解こうと試みる亀山さん（京都市上京区・上七軒文庫）

―上七軒文庫の講義では、仏教学に限らず文化人類学などさまざまな学問が紹介されてきました。

「僕は仏教そのものを前面に押し出すつもりはないんです。人間が営んできたほかの伝統的知性と仏教の『共通点』と『違い』を見つけだすのが、最終的な目的です。たとえば僕は、文化人類学者のレヴィ＝ストロースの著作に親しんできました。彼の『野生の思考』は、仏教を学問する上でも示唆に富んでいます」

―どのような点で示唆的なのでしょう。

「同書では、オーストラリアのトーレス海峡周辺に暮らす各氏族が、ワニやヘビ、サメ、イヌといった動物の名前を冠していると紹介されます。各動物には『平和を愛する』や『好戦的』といった行動類型や意味が込められており、氏族を特徴も含めて包括的に分類するために、これら動物の名前が使われたのです。動物を氏族の名前に用いるのはとっぴに思えますが、各氏族の特徴を分類し把握するための『概念化』と捉えれば、私たちが普段物事を分類する方法にも通じます。そしてこのように私たちとは一見すると異なる概念化の方法は、僕の研究する密教にも見いだせるのです」

―具体的に教えてください。

「たとえば日本中世の密教僧覚鑁は、中国の五行思想を参照しつつ、体内の肺などの臓器をさまざまな梵字や仏と対応させ、人間の身体が真理の世界とつながっていることを示そうとしました。たとえば肺は梵字の『バン（鑁）』であり、『阿弥陀仏』と表現されました。現代人からすれば、そこに論理的なつながりを見いだすのは難しいかもしれませんが、大切なのはオーストラリアの氏族と同じように、梵字や仏を使って人間の体という物事を理解しようとしたことです」

―現代では、科学の言葉で身体を理解しますね。

「はい。それに対して中世の僧侶は仏教用語で身体をイメージしたのです。言ってみれば中世の人々は現代とは異なる『言語』を使って世界を記述していました。一方で、同じ『言語』を使っているという点では共通していました」

―なるほど。一方で仏教は宗教ですし、世界を認識するための概念化だけではなく、真理を追究するという面も大切ではないですか。

「僕は仏教文献の研究者なので、『悟り』や『解脱』もまずは言葉の世界として捉えています。もちろん修行者の中には、言語化できない真理の領域があるという立場もあると思います。それはそれで非常に重要ですが、少なくとも僕は異なる人間観を持っています。悟りや解脱といった言葉によって、仏教者がどのように世界を認識していたのかを明らかにしたいと考えています」

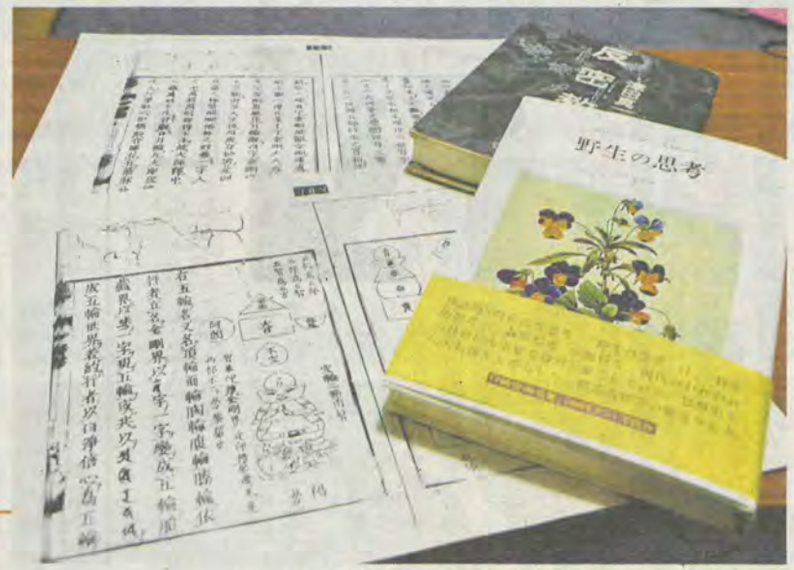
―亀山さんは僧籍も持っていますね。

「そこはまだ深く思索できていない部分がありますね。知的興味の赴くままに生きてきましたし、僧籍を得ることでより深く仏教を理解できると考えたので得度しました。しかし、今僕が述べた言葉の操作の世界と信仰の世界がどのような整合性を持つのか。まだ分かっていませんね」

―釈迦の開いた悟りもあくまでも言葉である、という立場は仏教としては異質ではないですか。

「悟りや解脱もほかの仏教的言語体系の中で総合的に理解するべきという立場は、あえて言えば物事が互いに関わり合っているとする『縁起』の思想に通じると思います。釈尊は輪廻を現実の法則と捉え、そこからの解脱を本気で目指しました。しかし現代においては、輪廻を信じていない人も多いでしょうし、解脱を望んでいる人も少ないかもしれません。それでも、解脱や悟りをある種のメタファーとして捉えることで新しい仏教哲学が見いだせるのではないかと思っています」

「もちろんこのようなことを釈尊が考えていたわけではありません。ただ現代に仏教を生かすために、僕なりに仏教をアップデートしたいと考えています。そのためには、釈尊の説いた教えをこれまでとは違った角度から捉えることも大切ではないでしょうか」




亀山さんが研究の対象としている覚鑁やレヴィ＝ストロースの著作

**かめやま・たかひこ**　1979年奈良県生まれ。龍谷大文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）。米国仏教大学院博士研究員、龍谷大アジア仏教文化研究センター博士研究員を経て、現在は京都大こころの未来研究センター研究員、上七軒文庫合同会社代表。専門は日本仏教学・密教学。編著書に「日本仏教と論義」（法藏館、2020年）がある。